

# 第11回 Upper structure triad②

## Blues systemでのUST

USTはBlues systemにおいて本領を発揮します。ブルースコードで最も使われるドミナントコード上に乗せられるUSTを考えます。

$$\text{ドミナントコード} = R + \mathbf{M3} + [\text{5th any}] + \mathbf{m7}$$

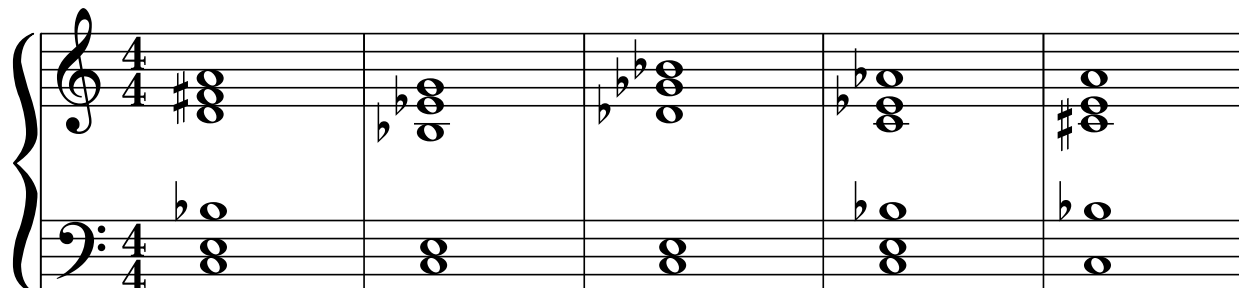
コードトーン				M3		(♭5)	P5	+5		m7	
テンション	♭9	9	#9			#11		♭13	13		
アボイド音					<b>11</b>						<b>△7</b>

ドミナントコードの成立を阻害する音は「11th」と「△7」です。C7上で考えると「F」と「B」です。

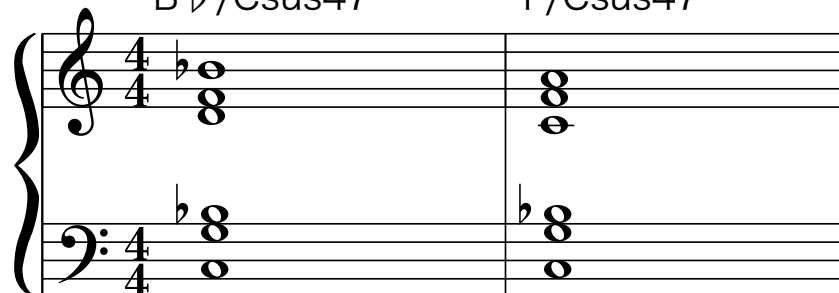
USTはメジャートライアドを最優先で使用します。全メジャートライアドで「F」と「B」を共に含まない物がUSTで使えます。

~~D♭~~ D E♭ ~~E~~ ~~F~~ G♭ ~~G~~ A♭ A ~~B♭~~ ~~B~~

よって使えるものは「D」「E $\flat$ 」「G $\flat$ 」「A」「A $\flat$ 」の5つです。ルートからの相対度数では「II」「III $\flat$ 」「V $\flat$ 」「VI $\flat$ 」「VI」となります。

(II)	(III $\flat$ )	(V $\flat$ )	(VI $\flat$ )	(VII $\flat$ )
D/C7	E $\flat$ /C7	G $\flat$ /C7	A $\flat$ /C7	A/C7
				

不可のものでもCsus47にすれば「F」と「B $\flat$ 」が使えます。ブルーノートペンタトニックスケールを考えればF音は割と頻繁に登場しますので、候補に入れておきます。

B $\flat$ /Csus47	F/Csus47
	

これらも含め、使用不可のUSTもアプローチコードとしてならば用いることができます。

# ハーモナイズの視点から見たUST

ルートからのインターバルでみたUSTをまとめてみます。

R ♭9 9 #9 M3

VI♭ V♭ VI II III♭ VI♭ VI

A♭/C7 C7 G♭(F♯)/C7 A/C7 D/C7 E♭/C7 A♭/C7 A/C7 C7

11 #11 P5 ♭13 13 m7

VII♭ IV V♭ III♭ VI♭ II VI III♭ V♭

B♭/Csus47 F/Csus47 G♭/C7 E♭/C7 C7 A♭/C7 D/C7 A/C7 E♭/C7 G♭/C7

R	♭9	9	#9	M3	11 (アポイド)	#11	P5	♭13	13	m7			
VI♭	(I)	V♭	VI	II	III♭	VI♭	VI	(I)	VI♭	II	VI	III♭	V♭

△7(B音)はドミナントコードを最も阻害する音です。もしもメロディで用いる場合は、瞬間的なクロマチックトーンのみに限られます。その場合のアプローチコードのUSTは、クロマチックアプローチとして用いるのが適切でしょう。

## 【補足】マイナートライアド

実践では9thへのUSTで「Vm」がよく使われます。Blues systemにて、ドミナントコードに使われるマイナートライアドは、ほぼこれだけです。

9

Vm  
Gm/C7

## 【3-11 Etude1】

メロディにUSTでのハーモナイズを行ってください。

Chords: C7, B+7, B $\flat$ 7, E $\flat$ 7

Chords: F7, B $\flat$ 7, C7, F $\sharp$ +7

Chords: G7, F7, C7, E $\flat$ 7, D+7, D $\flat$ 7

USTを用いたハーモナイズは以下ようになります。コードに対するUST部分を確認してください。

C7

B+7

B♭7



E♭7

F7

B♭7



C7

F#+7

G7



F7

C7

E♭7

D+7

D♭7

